

365日の応援歌

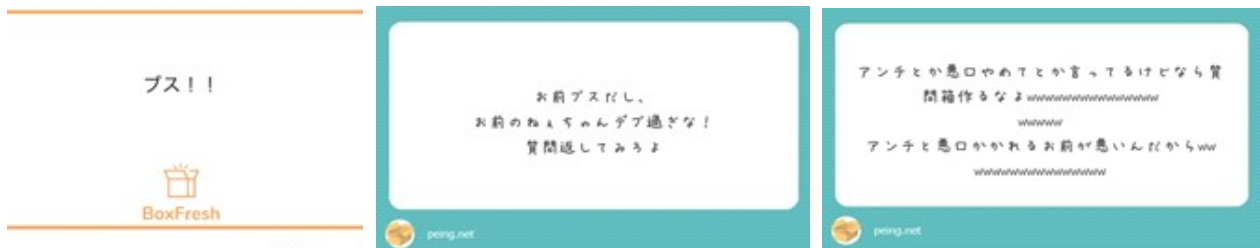
2年学年だより
第5号
令和3年11月17日

通称「質問箱」について考える

「Peing 質問箱」や「BoxFresh」というアプリを知っていますか。これらのアプリはSNS（LINE、Twitter、Instagram など）と提携し、SNSで質問を募集したり、質問に対して回答したりできるサービスで、今中学生の中でも人気となっています。旭中生もよく利用していると耳にします。なぜこれらのアプリを学年通信で紹介するのか。それはこれらのアプリを通じたトラブルが、旭中内でも複数起きているからです。質問を募集する人に対して、他の人が質問をすることができますが、誰が質問



しているのかは募集した人に知られません。匿名で質問をすることができます。純粋に気になることを質問すればいいのですが、下の画像のように、悪口や嫌がらせなどを送ってくる人がいます。



さらにその悪口や嫌がらせに対して反論したり、質問したのが誰かわからないのにある人を犯人と決めつけ、悪口や嫌がらせをその人に送ってしまい、トラブルになってしまったりしたという事例もあります。このように、突然一方的にSNS上で攻撃されてしまったり（通称「炎上」）、互いに誹謗中傷が激化してしまったりということが旭中でも毎年のように起こっていて、今年も起きてしまっています。全国に目を向けてみると、これらのアプリでのトラブルが家庭生活や学校生活にまで影響を及ぼしてしまっている事例もあります。場合によっては「いじめ」につながったり、最悪の場合「自殺」にまで追い込まれてしまったりするような事態もたくさん起きています。

大人から見れば何の得もないようなこのアプリがなぜ人気なのか。想像してみると、おそらく「自分のことを他の人に知ってほしい」「不特定多数の人とつながりたい、コミュニケーションを取りたい」というような中学生ならではの欲求が根底にあるのではないかと思います。

あるネット記事を紹介します。

「匿名はすごく残酷」女子高生を襲ったネットいじめ、その現実とは 籾智広太(BuzzFeed News Reporter,Japan)

匿名性が高く、特に外から見えにくいことから、深刻化すると懸念されている「SNSいじめ」。その実態はどうなっているのか。BuzzFeed NewsのLINE公式アカウント「バズおび」で、「SNSいじめ」について意見を募ったところ、「質問箱」の匿名いじめに悩む意見が複数の高校生から送られてきた。うち2人の女子生徒に話を聞いた。

「誰かわからないので、もしかしたらクラスみんなにこんな風に思われているんじゃないか、と一時期学校に行くのが辛いことがありました」そうBuzzFeed Newsの取材に語るのは、秋田県の高校3年生、しめさん。「質問箱」を通じたいじめに悩まされた経験を持つ。「1人が言い出すとそれに便乗して書き込む人も多かったので連続で悪口や偏見、根も葉もないうわさを書かれました。自分の見た目や性格のこと『何時に誰といたよね』など、常に監視されてるんじゃないかと思ってしまうくらいの個人情報も質問箱に来たことがあります」「匿名で誰が書き込んでいたか本当にわからなかったです。だからこそ余計に、学校で自分はこう思われてるんだな、学校行きたくないな、人の目が怖いな、と負のループに陥ってしまいました」

すぐに質問箱は閉鎖した。しかしトラウマはなかなか抜けなかった。「正直に言うと、質問箱を消してから対人関係に不安を持つようになってしまいました」(中略)「質問箱などのツールを消してしまうのをおすすめしたいと思います。消すという行為は悪口を書き込んだ人からすれば『逃げた』とも思われるかもしれませんが、ネットのいじめは現実世界でのいじめよりはるかにタチが悪いです」「顔が見えないのをいいことに好き放題書き込む人たちは、人の気持ちを理解できないんだなど、ちょっとあざ笑ってしまうくらいがちょうどいいんです。あまり言い過ぎて自分までが加害者にならないような大人な対応をすること、そして、ネットでも現実でも構わないので、誰か本当に信頼できる人を見つけ相談することで、少し気が楽になると思います」

「誰かもわからない、匿名の悪口は怖かったです…」同じく「質問箱」でいじめを受けた経験がある、京都府に住む高校2年生のあいさんはそう語る。自身のInstagramのアカウントに3週間ほど質問箱を設置したところ、送られてきた40ほどの質問のうち、8割は悪口だったという。

「ブス」「自分のこと可愛いって思ってる」「うるさい」「天パやからちゃんとストレートアイロンかけろ。ウザい」「〇〇でめっちゃうるさいので黙れ」「友達と話しているけど、あなたの友達みんな苦笑してるよ」「友達いるんですか？」

そうした罵声・雑言の数々は全てが匿名だった。誰が書き込んだのかわからない。それがあいさんを一番苦しめたものだ。「すぐに質問箱を封鎖しました。匿名はすごく残酷なもので、書いた本人は軽い気持ちだと思います。『匿名だから絶対にわからないだろう笑』みたいな感じで…」中学時代に友人を失ったことがあるというあいさんは、もし今いじめを受けている人がいたとしても「絶対に自殺しないでください」と語る。「絶対に自殺はしないでください。絶対に人生いいことがあります。誰が書き込んだかわからない人は、SNSから離れるのもいいと思います。学校やSNSだけがあなたの人生でないです」

この記事を読んでどう思いましたか。SNSは便利なものであり、今生活に欠かせないものかもしれませんが、一度本当にそのSNSが、そのアプリが必要かどうか考えてみてほしいと思います。強制はしませんが、便利なことの裏側にはリスク(危険)が伴っています。大ごとにならないためにも、「必要ない」「これはリスクがあるし、やめた方が…」と思うものがないか考えてほしいと思います。さらに、不特定多数の人と関わると、その分リスクも増します。SNSに「鍵」をかけて使用することも必要です。一度検討してみてください。

不快な質問や悪口などを送った匿名の相手特定することはできませんが、質問する側が複数の人から「ブロック」された場合は、IPアドレスが回答する側に表示される仕組みになっています。この人はおかしいと感じたら、積極的に「ブロック」したり、「通報」したりして然るべき対応を心がけましょう。また、記事にもある通り、やり返すのではなく、「相談しやすい人に相談する」「無視する」などの大人の対応を心がけましょう。

もしも軽い気持ちで、SNS上で人を攻撃してしまったことがある人。質問箱に悪口を書いてしまったことがある人。他人を傷つけていいことは何もありません。前にも学年集会の場で言いましたが、自分がやってしまったことは自分にいつか降りかかってきます(ブーメランの法則)。

「誰かを傷つける行為を、絶対にやめてください！」